

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

地域固有の自然景観を活かした動物園再整備による地域活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野市

3 地域再生計画の区域

長野市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

長野市の人口は2000年にピークの387,911人を迎え、2007年以降は自然動態、社会動態ともに減少基調をとる本格的な人口減少局面に突入しており、長野市人口ビジョンにおける将来人口の推計と分析によると、2017年4月現在380,473人の人口が2045年には30万人を割り込むと予想されている。また、少子高齢化という人口構造の大きな変化を受け、2045年には、65歳以上の高齢者人口が約4割を占めると予想されている（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に準拠した推計）。

2014年9月には、「人口減少に挑む長野市長声明」として、「定住人口の増加」、「交流人口の増加」、「特色ある地域づくり」を積極的に推進し、人口減少に挑み、元気と活力があふれるまちを目指す強い決意を表明し、各種施策に取り組んでいる。

交流人口の面では、善光寺御開帳が開催された2009年と2015年に観光入込客数の大幅な増加が見られた。また、大河ドラマ真田丸の影響で真田10万石の城下町である松代地区が大きく注目を浴び、2016年には観光入込客数の増加も見られたが、このような大きな要因の無い平時の観光入込客数は、1,002万人（2010年～2014年平均）程度となっている。「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、この平時の観光入込客数を増加させることも目標の一つとしている。

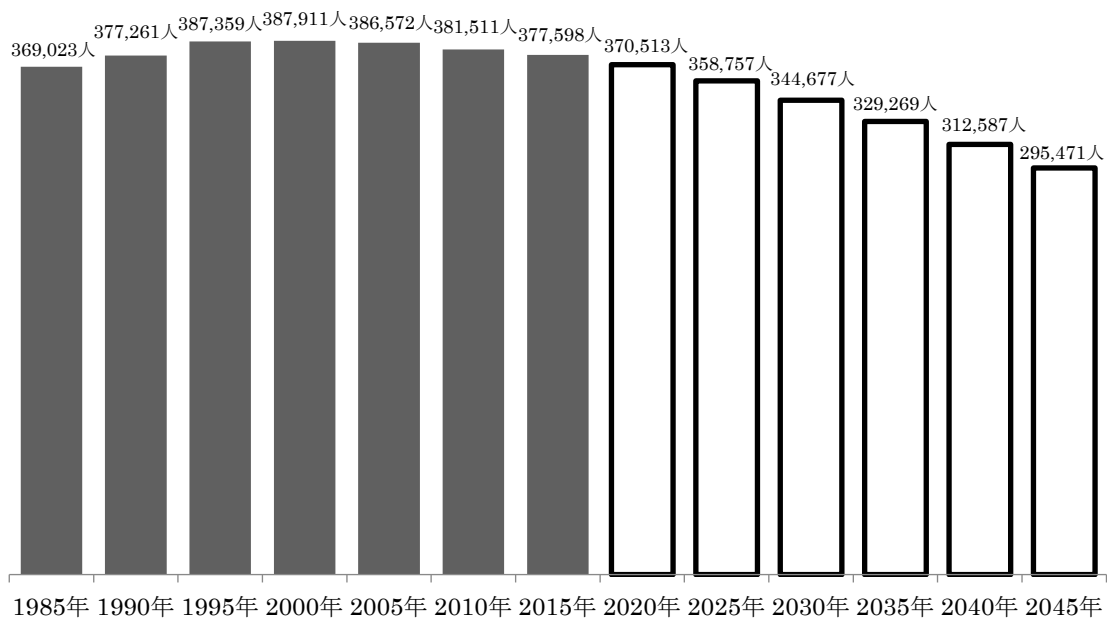


図1. 長野市の総人口推移と予測

(2015年までは「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に準拠した推計)

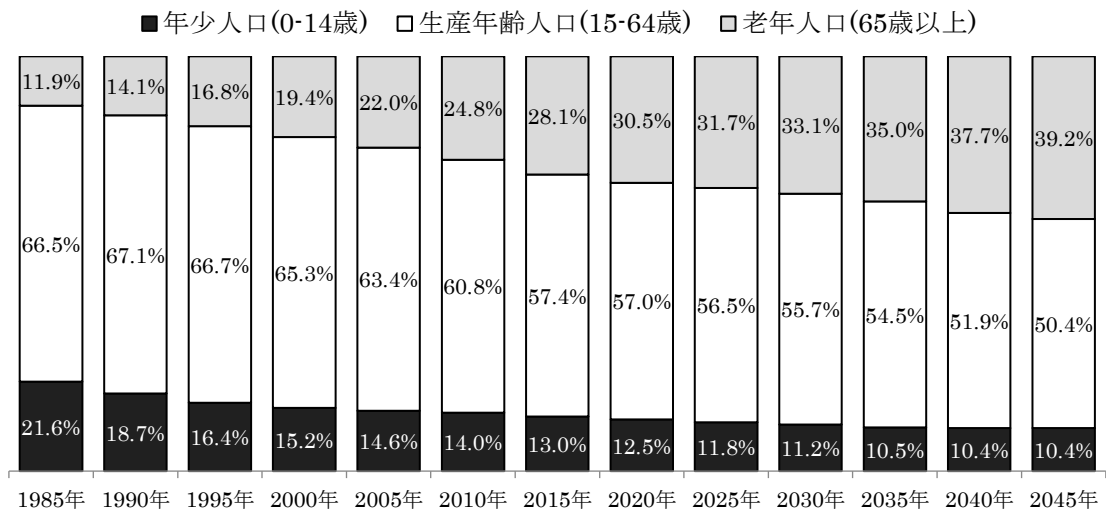


図2. 長野市の年齢3区分別人口の変化と予測

(2015年までは「国勢調査」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に準拠した推計)

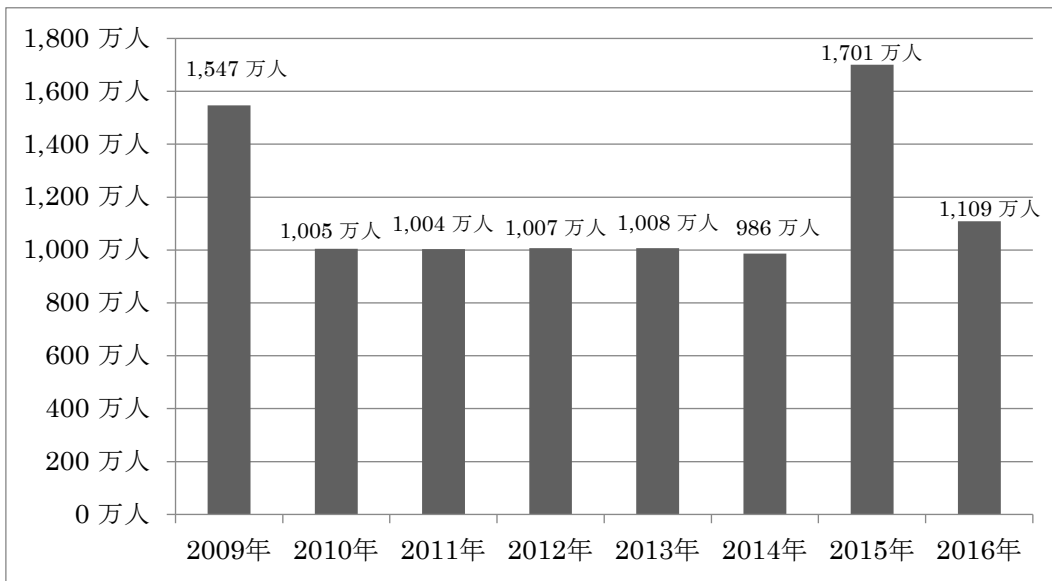


図3. 長野市の観光入込客数の推移

4-2 地域の課題

善光寺御開帳などの大きな要因のない平時にも長野市が注目を集め、交流人口の底上げを図るためには、今まで以上に地域の魅力を磨き上げ、特色のある地域づくりを進める必要がある。また、本市の観光地としては、善光寺、戸隠という強いブランド力を持った有力な観光地があり周遊の核となっているが、それ以外の観光地がまだ立ち寄り地点としては弱い状況にあり、今後は、核となる観光地を踏まえつつ市内各観光資源を育てていく必要がある。

本市の観光施設の一つであり県内最大の動物園である「茶臼山動物園」は、隣接する「茶臼山自然植物園」と合わせ年間30万人が訪れる重要な観光施設となっている。中でも、年間20万人以上が来訪し、市外からの利用者が全体の7割を占める茶臼山動物園は、ゾウやキリンなどの大型動物も飼育する本格的な動物園であることに加え、園内外の豊かな森や、善光寺平や山稜を望む眺望など都会の動物園にはない優れた自然景観を有している。しかし、現在の動物展示施設は、檻や壁に囲まれた無機質な旧来からの展示であり、これら立地上の好条件を備えていながら、動物園の魅力として活かされず、観光誘客に繋がっていない。

現在、茶臼山動物園では施設の老朽化対策や繁殖など飼育環境の改善が課題となっているが、施設の更新や改修とともに人を惹きつける魅力を付加することで集客力を高めることが必要となっている。

4-3 目標

善光寺平を一望する眺望や豊かな森に囲まれた里山環境を有する茶臼山動物園において地域固有の自然景観を活用した動物園再整備を実施する。再整備では、壁や檻など人工物に囲まれた従来の展示方法を転換し、周辺の森や遠くの山並みなど園内から望む美しい風景を展示に取り込み、茶臼山動物園でしか見ることができない展示風景を創造することで動物園の魅力と集客力を高め、来園者と交流人口の増加を図ることを目標とする。

【数値目標】

事業	動物展示改善事業	年月
KPI	動物園入園者数	
申請時	200,000人	H30.1
初年度	210,000人	H31.3
2年目	220,000人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

長野市観光拠点の一つである茶臼山動物園を地域固有の自然景観を活用した特色ある動物展示を取り入れ再整備する。

再整備する動物展示施設は、動物の生息地の環境を再現しながら動物本来の行動を引き出す「生息環境展示」の手法を取り入れ、動物本来の野生での暮らしや生態を学べる展示に取り組む。更に、園内の樹木の活用や、園内から望む山林や山稜など優れた眺望を展示に取り込むことにより展示風景の質を高め、本動物園でしか見ることができない動物展示を行う。地域固有の自然景観を動物展示に活用することでオリジナリティと地域性を生み出し、オンリーワンをアピールしながら誘客PRを行う。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

- (1) 事業名：地域固有の自然景観を活かした動物園再整備による
地域活性化プロジェクト

- (2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

善光寺平を一望する眺望や豊かな森に囲まれた里山環境を有する茶臼山動物園において地域固有の自然景観を活用した動物園再整備を実施する。再整備では、壁や檻など人工物に囲まれた従来の展示方法を転換し、周辺の森や遠くの山並みなど園内から望む美しい風景を展示に取り込み、茶臼山動物園でしか見ることができない展示風景を創造することで動物園の魅力と集客力を高め、来園者と交流人口の増加を図ることを目標とする。

(事業の内容)

・茶臼山動物園再整備事業

自然景観を活用した展示の改善効果や飼育スペース不足解消のため施設改修の必要性が高いオランウータン飼育展示施設の再整備を実施する。再整備では、園内の既存樹林を活用し、周辺の森林景観を視覚に取り込むことで、樹上性のオランウータンの行動や生態を野生に近い状態で観察できる国内初の展示に取り組む。周辺の森林景観など地域固有の自然景観を展示に取り入れることで奥行きや臨場感などの特色を持たせるとともに、単調になりがちな建築物や工作物とは異なる変化に富んだ展示風景を作り出す。季節ごとに動物園の様子をPRするなど何度も訪れたい動物園づくりを目指すとともに、動物園の魅力の向上により新規来園者やリピーターを獲得し、来園者の増加と地域の交流人口増加につなげる。

→各年度の事業の内容

茶臼山動物園再整備事業

初年度) 既存の樹林を活用したオランウータン飼育展示施設の実施設設計及び設計に必要な測量、地質調査を行う。現在、檻の中でしか見ることができないオランウータンを既存の樹林で展示し自然の状態を観察できる計画を広くPRし、事業への関心と期待を高めながら誘客を図る。

2年目) オランウータン飼育展示施設の整備に着手し、既存樹林を活用した放飼場(動物飼育エリア)を整備する。さらに、新たな施設の概要を来園者に対してPRするとともに、施設が整備されていく過程の情報を広く発信しながら事業への関心と期待を高めながら誘客を図る。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「魅力を高め、ひとを惹きつける、ふるさと「ながの」の実現～移住・定住・交流の促進～」を定め、施策として「ながの」に宿る豊富な地域資源を活かした観光振興」を掲げている。具体的

施策として、歴史や豊かな自然、食文化など恵まれた観光資源を活かした特色ある観光地づくりを推進することで、観光客数の増加と滞在型観光の確立を図ることとしている（一人当たりの観光消費額13,017円（平成27年度）を平成29年度から毎年2%の増加を目指し、平成31年度には一人当たりの観光消費額を13,800円にすることを目標としている。）。

本事業は、地域固有の自然景観を資源として動物園の魅力向上に活用し、集客ポテンシャルの向上による交流人口の増加により、当該戦略の実現に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	動物展示改善事業	年月
KPI	茶臼山動物園 入園者数	
申請時	200,000人	H30.1
初年度	210,000人	H31.3
2年目	220,000人	H32.3

(6) 事業費 (単位：千円)

	年度	H30	H31	計
	事業費計		20,000	60,000
区分	委託料	7,500	—	7,500
	工事請負費	12,500	60,000	72,500

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	H31	計
フォーモーションデザイン(株)	—	100	100
計	—	100	100

(8) 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

（評価の手法）

事業のKPIである「茶臼山動物園入園者数」について、実績値を公表する。また、

本動物園再整備事業において設計指導者を務める学識経験者（大阪芸術大学環境デザイン学科教授）により事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

（評価の時期・内容）

毎年度3月に外部有識者（学識経験者）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

（公表の方法）

目標の達成状況については、検証後速やかに長野市公式WEBサイト上で公表する。

（9）事業期間

平成30年4月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

（1）動物園教育普及事業

事業概要：通常一般に公開していないバックヤード等の裏側探検見学会を開催する。また、同再整備施設工事中の見学会や内覧会を開催し、事業への理解と動物園との関係強化につなげる。

実施主体：長野市及び長野市開発公社（指定管理者）

事業期間：平成30年度～平成32年度

（2）茶臼山動物園再整備事業

事業概要：平成31年度に整備する屋外放飼場（動物飼育エリア）に引き続き、観客通路等の周辺施設（観覧エリア）の整備を行い、オランウータン飼育展示施設の一連の整備を年度上半期に完了させ、新施設をオープンする。オープンに合わせ、国内初となる森の中で観察できる展示を広くPRし誘客を図る。

次年度に整備を予定するアムールトラ飼育展示施設の実施設計を行う。森林景観を展示に取り込んだ展示の計画をPRし、事業への関心と期待を高めながら誘客を図る。

実施主体：長野市

事業期間：平成 32 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の K P I である「茶臼山動物園入園者数」について、実績値を公表する。また、本動物園再整備事業において設計指導者を務める学識経験者（大阪芸術大学環境デザイン学科教授）により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度 3 月に外部有識者（学識経験者）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに長野市公式 W E B サイト上で公表する。